

傷寒論における脈の種類

脈

- ①みやく。血すぢ。血管。動物の體中の血の運行する路。
- ②みづみち。水道
- ③すぢ。道。つづき。つらなり。物の貫通連絡して系統をなすもの。
- ④脈搏
- ⑤脈搏の様子をみて病状を察すること。
- ⑥俗に脈につくる。
(邦)みやく。物事についての見込み。

①みやく。ちすぢ。

解字 會意。血と派（派の本字で、水の流れるすぢ）の合字。以て、血派の運行するすぢ、血脈・血管の意を表す。

脈診のことを切脈、搏脈、診脈、切ともいう。

脈の字を脈、脉と書く。

「脉、月に従い永に従う。此を得て歳月の永かるべきを謂うなり。古の・の字、血に従い派に従う、氣血をして各々分派に依り、経絡を行らしむる所以なり」
(李梴積)

「脉とは幕なり、脉を診るとは、幕外の人にして、其の幕内の事を知らんと欲するが如きなり。これを字韻にて考え見るべし」
(朱震亨)

診脈の場所と診法

- 1、寸口（橈骨動脈部）にて診する（素問）『経別論、平人氣象論』
- 2、尺寸合診の法（尺膚、橈骨動脈にて診するもの）『陰陽応象大論』
- 3、三部九候法『三部九候論』
- 4、虚里独診の法（心尖部にて診する）『平人氣象論』
- 5、六脈併診の法（天府、尺沢、神門、太衝、衝陽、太谿）『至真要大論』
- 6、人迎寸口合診の法（靈枢）『禁服篇』
- 7、尺沢独診の法『邪氣臟腑病形篇』

深在性：浮、沈

速度：數、遲

リズム：結、代、促

幅：細、大、洪

長さ：長、短

緊張：緊、弱、澀、弦

血管壁の堅さ及び緊張：芤、軟

出入：滑、疾、遲、緩

(漢方入門講座より)

☆二十四脈

一般に二十四種類の脈というのは『脈経』（晋、王叔和撰、成立年不明）の巻第一「脈形状指下秘訣第一」に記述されている。

「浮・孔・滑・実・弦・緊・洪・微・沈・緩・畜・遲・伏・濡・弱・長・短・虚・促・結・代・牢・動・細」

脈に関する書物

- 1、『脈経』（王叔和）
- 2、『察病指南』（宋、施発、1241年）
- 3、『瀕湖脉学』（明、李時珍、1563年）
- 4、『増補脉論口訣』（江戸、著者不明、1683年）
- 5、『脉法指南』（江戸、岡本一抱、1720年）
- 6、『脉学輯要』（江戸、多紀元簡、1795年）

○脈浮

〔浮の脈は、あぐればなおも、あまりあり、おせばかくれてうするなりけり〕

〔一〕太陽之爲病、脈浮、頭項強痛而惡寒。⑮

〔六〕太陽病、發熱而渴、不惡寒者、爲温病。若發汗已、身灼熱者、名風温。

風溫爲病、脈陰陽俱浮、自汗出、身重、多眠睡、鼻息必鼾、語言難出。

若被下者、小便不利、直視失溲。若被火者、微發黃色、劇則如驚癇、時痲癢。若火薰之、一逆尚引日、再逆促命期。

- [十六] 太陽病三日、已發汗、若吐、若下、若溫針仍不解者、此爲壞病、桂枝不中與之也。觀其脈證、知犯何逆、隨證治之。桂枝本爲解肌、若其人脈浮緊、發熱、汗不出者、不可與之也。常須識此、勿令誤也。⑮
- [二九] 傷寒脈浮、自汗出、小便數、心煩、微惡寒、脚攣急、反與桂枝湯、欲攻其表、此誤也、得之便厥。咽中乾、煩躁、吐逆者、作甘草乾薑湯與之、以復其陽；若厥愈足溫者、更作芍藥甘草湯與之、其脚則伸；若胃氣不和、譫語者、少與調胃承氣湯、若重發汗、復加燒鍼者、四逆湯主之。⑮
- [三〇] 問曰：證象陽旦、按法治之而增劇、厥逆、咽中乾、兩脛拘急而譫語、師曰：言夜半手足當溫、兩脚當伸、後如師言、何以知此。答曰：寸口脈浮而大、浮爲風、大爲虛、風則生微熱、虛則兩脛攣、病形象桂枝、因加附子參其間。增桂令汗出、附子溫經、亡陽故也、厥逆、咽中乾、煩躁、陽明內結、譫語煩亂、更飲甘草乾薑湯、夜半陽氣還、兩足當熱；脛尚微拘急、重與芍藥甘草湯、爾乃脛伸；以承氣湯微瀉、則止其譫語、故知病可愈。⑬
- [三七] 太陽病十日以去、脈浮細而嗜臥者、外已解也；設胸滿脅痛者、與小柴胡湯；脈但浮者、與麻黃湯。⑬
- [三八] 太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青龍湯主之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆也。⑮
- [三九] 傷寒脈浮緩、身不疼、但重、乍有輕時、無少陰證者、大青龍湯發之。⑮
- [四二] 太陽病、外證未解、脈浮弱者、當以汗解、宜桂枝湯。⑮
- [四五] 太陽病、先發汗不解、而復下之、脈浮者不愈。浮爲在外、而反下之、故令不愈。今脈浮、故在外、當須解外則愈、宜桂枝湯。⑬
- [四六] 太陽病、脈浮緊、無汗、發熱、身疼痛、八九日不解、表證仍在、此當發其汗。服藥已、微除、其人發煩、目瞑、劇者必衄。衄乃解、所以然者、陽氣重故也、麻黃湯主之。⑮
- [四七] 太陽病、脈浮緊、發熱身無汗、自衄者愈。⑭
- [四九] 脈浮數者、法當汗出而愈、若下之、身重心悸者、不可發汗、當自汗出乃解。所以然者、尺中脈微、此裏虛、須表裏實、津液自和、便自汗出愈。⑭
- [五十] 脈浮緊者、法當身疼痛、宜以汗解之、假令尺中遲者、不可發汗、何以知其然、以榮氣不足、血少故也。⑭
- [五一] 脈浮者、病在表、可發汗、宜麻黃湯。⑬
- [五二] 脈浮而數者、可發汗、宜麻黃湯。⑬
- [五五] 傷寒脈浮緊、不發汗、因致衄者、麻黃湯主之。⑮
- [五七] 傷寒發汗已解、半日許、復煩、脈浮數者、可更發汗、宜桂枝湯。⑭
- [七一] 太陽病、發汗後、大汗出、胃中乾、煩躁不得眠、欲得飲水者、少少與飲之、令胃氣和則愈；若脈浮、小便不利、微熱消渴者、五苓散主之。⑮
- [七二] 發汗已、脈浮數、煩渴者、五苓散主之。⑮
- [九八] 得病六、七日、脈遲浮弱、惡風寒、手足溫、醫二、三下之、不能食、而脅下滿痛、面目及身黃、頸項強、小便難者、與柴胡湯、後必下重、本渴飲水而嘔者、柴胡湯不中與也。食穀者噦。⑭
- [一〇八] 傷寒、腹滿、譫語、寸口脈浮而緊、此肝乘脾也、名曰縱、刺期門。⑬
- [一一二] 傷寒、脈浮、醫火迫劫之、亡陽、必驚狂、臥起不安者、桂枝去芍藥加蜀漆牡蛎龍骨救逆湯主之。⑮
- [一一三] 形作傷寒、其脈不弦緊而弱、弱者必渴、被火必譫語；弱者發熱、脈浮、解之當汗出愈。⑭
- [一一五] 脈浮、熱甚、而反灸之、此爲實、實以虛治、因火而動、必咽燥吐血。⑭
- [一一六] 微數之脈、慎不可灸、因火爲邪、則爲煩逆、追虛逐實、血散脈中、火氣雖微、內攻有力、焦骨傷筋、血難復也。脈浮、宜以汗解、用火灸之、邪無從出、因火而盛、病從腰以下必重而痺、名火逆也、欲自解者、必當先煩、煩乃有汗而解、何以知之、脈浮故知汗出解。⑭
- [一二八] 問曰：病有結胸、有藏結、其狀何如、答曰：按之痛、寸脈浮、關脈沈、名曰結胸也。⑬
- [一二九] 何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。⑬
- [一三二] 結胸證、其脈浮大者、不可下、下之則死。⑭
- [一三四] 太陽病、脈浮而動數、浮則爲風、數則爲熱、動則爲痛、數則爲虛、頭痛發熱、微盜汗出、而反惡寒者、表未解也。醫反下之、動數變遲、膈內拒痛、胃中空虛、客氣動膈、短氣躁煩、心中懊懣、陽氣內陷、心下因鞭、則爲結胸、大陷胸湯主之；若不結胸、但頭汗出、餘處無汗、劑頸而還、小便不利、身必發黃。⑮

- [一三八] 小結胸病、正在心下、按之則痛、脈浮滑者、小陷胸湯主之。⑮
- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。⑮
- [一五一] 脈浮而緊、而復下之、緊反入裏、則作痞、按之自濡、但氣痞耳。⑭
- [一五四] 心下痞、按之濡、其脈關上浮者、大黃連瀉心湯主之。⑮
- [一六六] 病如桂枝證、頭不痛、項不強、寸脈微浮、胸中痞鞭、氣上衝咽喉、不得息者、此爲胸有寒也、當吐之、宜瓜蒂散。⑭
- [一七〇] 傷寒脈浮、發熱無汗、其表不解者、不可與白虎湯；渴欲飲水、無表證者、白虎加人參湯主之。⑮
- [一七四] 傷寒八、九日、風濕相傳、身體疼煩、不能自轉側、不嘔不渴、脈浮虛而澀者、桂枝附子湯主之；若其人大便鞭、小便自利者、去桂加白朮湯主之。⑮
- [一七六] 傷寒、脈浮滑、此以表有熱裏有寒、白虎湯主之。⑮
- [一八七] 傷寒脈浮而緩、手足自溫者、是爲繫在太陰。太陰者、身當發黃。若小便自利者、不能發黃、至七、八日、大便鞭者、爲陽明病也。⑬
- [一八九] 陽明中風、口苦咽乾、腹滿微喘、發熱惡寒、脈浮而緊、若下之、則腹滿小便難也。⑬
- [二〇一] 陽明病、脈浮而緊者、必潮熱、發作有時；但浮者、必盜汗出。⑬
- [二二一] 陽明病、脈浮而緊、咽燥口苦、腹滿而喘、發熱汗出、不惡寒、反惡熱、身重。若發汗則躁、心憤憤、反譫語；若加溫鍼、必怵惕煩躁不得眠；若下之、則胃中空虛、客氣動膈、心中懊懣、舌上胎者、梔子豉湯主之。⑮
- [二二三] 若脈浮發熱、渴欲飲水、小便不利者、猪苓湯主之。⑮
- [二二七] 脈浮發熱、口乾鼻燥、能食者、則衄。⑬
- [二三一] 脈弦浮大、而短氣、腹都滿、脅下及心痛、久按之、氣不通、鼻乾不得汗、嗜臥、一身及目悉黃、小便難、有潮熱、時時噦、耳前後腫、刺之小差、外不解、病過十日、脈續浮者、與小柴胡湯。⑮
- [二三二] 脈但浮、無餘證者、與麻黃湯；若不尿、腹滿加噦者、不治。⑮
- [二三五] 陽明病、脈浮、無汗而喘者、發汗則愈、宜麻黃湯。⑬
- [二四〇] 病人煩熱、汗出則解、又如瘧狀、日晡所發熱者、屬陽明也。脈實者、宜下之；脈浮虛者、宜發汗；下之與大承氣湯、發汗宜桂枝湯。⑭
- [二四六] 脈浮而芤、浮爲陽、芤爲陰、浮芤相搏、胃氣生熱、其陽則絕。⑬
- [二四七] 跌陽脈浮而澀、浮則胃氣強、澀則小便數、浮澀相搏、大便則鞭、其脾爲約、麻子仁丸主之。⑬
- [二五七] 病人無表裏證、發熱七、八日、雖脈浮數者、可下之。假令已下、脈數不解、合熱則消穀喜飢、至六、七日不大便者、有瘀血、宜抵當湯。⑬
- [二六八] 三陽合病、脈浮大、上關上、但欲眠睡、目合則汗。⑭
- [二七六] 太陽病、脈浮者、可發汗、宜桂枝湯。⑭
- [二七八] 傷寒脈浮而緩、手足自溫者、繫在太陰、太陰當發身黃。若小便自利者、不能發黃。至七、八日、雖暴煩下利日十餘行、必自止、以脾家實、腐穢當去故也。⑭
- [二九〇] 少陰中風、脈陽微陰浮者、爲欲愈。⑬
- [三二七] 厥陰中風、脈微浮、爲欲愈、不浮爲未愈。⑬
- [三六一] 下利、脈數、有微熱、汗出、今自愈；設復緊、爲未解。一云設脈浮復緊。⑬
- [三六三] 下利、寸脈反浮數、尺中自澀者、必清膿血。⑬
- [三九四] 傷寒差以後、更發熱、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之。脈沈實一作緊者、以下解之。⑮

● 浮緊

- [三] 太陽病或已發熱、或未發熱、必惡寒、體痛、嘔逆、脈陰陽俱緊者、名爲傷寒。
- [十六] 太陽病三日、已發汗、若吐、若下、若溫針仍不解者、此爲壞病、桂枝不中與之也。觀其脈證、知犯何逆、隨證治之。桂枝本爲解肌、若其人脈浮緊、發熱、汗不出者、不可與之也。常須識此、勿令誤也。
- [三八] 太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青龍湯主之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆也。
- [四六] 太陽病、脈浮緊、無汗、發熱、身疼痛、八九日不解、表證仍在、此當發其汗。服藥已、微除、其人發煩、目瞑、劇者必衄。衄乃解、所以然者、陽氣重故也、麻黃湯主之。
- [四七] 太陽病、脈浮緊、發熱身無汗、自衄者愈。
- [五十] 脈浮緊者、法當身疼痛、宜以汗解之、假令尺中遲者、不可發汗、何以知其然、以榮氣不足、血少故也。

- 〔五五〕傷寒脈浮緊、不發汗、因致衄者、麻黃湯主之。
- 〔一〇八〕傷寒、腹滿、譫語、寸口脈浮而緊、此肝乘脾也、名曰縱、刺期門。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- 〔一五一〕脈浮而緊、而復下之、緊反入裏、則作痞、按之自濡、但氣痞耳。
- 〔一八九〕陽明中風、口苦咽乾、腹滿微喘、發熱惡寒、脈浮而緊、若下之、則腹滿小便難也。
- 〔二〇一〕陽明病、脈浮而緊者、必潮熱、發作有時；但浮者、必盜汗出。
- 〔二二一〕陽明病、脈浮而緊、咽燥口苦、腹滿而喘、發熱汗出、不惡寒、反惡熱、身重。若發汗則躁、心憤憤、反譫語；若加溫鍼、必怵惕煩躁不得眠；若下之、則胃中空虛、客氣動膈、心中懊憹、舌上胎者、梔子豉湯主之。
- 〔三六一〕下利、脈數、有微熱、汗出、今自愈；設復緊、爲未解。一云設脈浮復緊。

●浮大

- 〔三〇〕問曰：證象陽旦、按法治之而增劇、厥逆、咽中乾、兩脛拘急而譫語、師曰言夜半手足當溫、兩脚當伸、後如師言、何以知此。答曰：寸口脈浮而大、浮爲風、大爲虛、風則生微熱、虛則兩脛攣、病形象桂枝、因加附子參其間。增桂令汗出、附子溫經、亡陽故也、厥逆、咽中乾、煩躁、陽明內結、譫語煩亂、更飲甘草乾薑湯、夜半陽氣還、兩足當熱；脛尚微拘急、重與芍藥甘草湯、爾乃脛伸；以承氣湯微瀉、則止其譫語、故知病可愈。
- 〔一三二〕結胸證、其脈浮大者、不可下、下之則死。
- 〔二三一〕陽明中風、脈弦浮大而短氣、腹都滿、脅下及心痛、久按之、氣不通、鼻乾不得汗、嗜臥、一身及目悉黃、小便難、有潮熱、時時噦、耳前後腫、刺之小差、外不解、病過十日、脈續浮者、與小柴胡湯。
- 〔二六八〕三陽合病、脈浮大、上關上、但欲眠睡、目合則汗。

●浮細

- 〔三七〕太陽病十日以去、脈浮細而嗜臥者、外已解也；設胸滿脅痛者、與小柴胡湯；脈但浮者、與麻黃湯。
- 〔一二九〕何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。

●浮弱

- 〔三八〕太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青龍湯主之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆也。
- 〔四二〕太陽病、外證未解、脈浮弱者、當以汗解、宜桂枝湯
- 〔九八〕得病六、七日、脈遲浮弱、惡風寒、手足溫、醫二、三下之、不能食、而脅下滿痛、面目及身黃、頸項強、小便難者、與柴胡湯、後必下重、本渴飲水而嘔者、柴胡湯不中與也。食穀者噦。
- 〔一一三〕形作傷寒、其脈不弦緊而弱、弱者必渴、被火必譫語；弱者發熱、脈浮、解之當汗出愈。

●浮緩

- 〔三九〕傷寒脈浮緩、身不疼、但重、乍有輕時、無少陰證者、大青龍湯發之。
- 〔一八七〕傷寒脈浮而緩、手足自溫者、是爲繫在太陰。太陰者、身當發黃。若小便自利者、不能發黃、至七、八日、大便鞕者、爲陽明病也。
- 〔二七八〕傷寒脈浮而緩、手足自溫者、繫在太陰、太陰當發身黃。若小便自利者、不能發黃。至七、八日、雖暴煩下利日十餘行、必自止、以脾家實、腐穢當去故也。

●浮數

- 〔四九〕脈浮數者、法當汗出而愈、若下之、身重心悸者、不可發汗、當自汗出乃解。所以然者、尺中脈微、此裏虛、須表裏實、津液自和、便自汗出愈。
- 〔五二〕脈浮而數者、可發汗、宜麻黃湯。
- 〔五七〕傷寒發汗已解、半日許、復煩、脈浮數者、可更發汗、宜桂枝湯。
- 〔七二〕發汗已、脈浮數、煩渴者、五苓散主之。
- 〔一一六〕微數之脈、慎不可灸、因火爲邪、則爲煩逆、追虛逐實、血散脈中、火氣雖微、內攻有力、焦骨傷筋、血難復也。脈浮、宜以汗解、用火灸之、邪無從出、因火而盛、病從腰以下必重而痺、名火逆也、欲自解者、必當先煩、煩乃有汗而解、何以知之、脈浮故知汗出解。
- 〔一三四〕太陽病、脈浮而動數、浮則爲風、數則爲熱、動則爲痛、數則爲虛、頭

痛發熱、微盜汗出、而反惡寒者、表未解也。醫反下之、動數變遲、膈內拒痛、胃中空虛、客氣動膈、短氣躁煩、心中懊憹、陽氣內陷、心下因硬、則爲結胸、大陷胸湯主之；若不結胸、但頭汗出、餘處無汗、劑頸而還、小便不利、身必發黃。

- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- [二五七] 病人無表裏證、發熱七八日、雖脈浮數者、可下之。假令已下、脈數不解、合熱則消穀喜飢、至六、七日不大便者、有瘀血、宜抵當湯。
- [三六一] 下利、脈數、有微熱、汗出、今自愈；設復緊、爲未解。一云設脈浮復緊。

●浮滑

- [一三八] 小結胸病、正在心下、按之則痛、脈浮滑者、小陷胸湯主之。
- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- [一七六] 傷寒、脈浮滑、此以表有熱裏有寒、白虎湯主之。

●浮虛

- [一七四] 傷寒八、九日、風濕相傳、身體疼煩、不能自轉側、不嘔不渴、脈浮虛而澀者、桂枝附子湯主之；若其人大便鞭、小便自利者、去桂加白朮湯主之。
- [二四〇] 病人煩熱、汗出則解、又如瘧狀、日晡所發熱者、屬陽明也。脈實者、宜下之；脈浮虛者、宜發汗；下之與大承氣湯、發汗宜桂枝湯。

●浮芤

- [二四六] 脈浮而芤、浮爲陽、芤爲陰、浮芤相搏、胃氣生熱、其陽則絕。

●浮澀

- [一七四] 傷寒八、九日、風濕相傳、身體疼煩、不能自轉側、不嘔不渴、脈浮虛而澀者、桂枝附子湯主之；若其人大便鞭、小便自利者、去桂加白朮湯主之。
- [二四七] 跌陽脈浮而澀、浮則胃氣強、澀則小便數、浮澀相搏、大便則鞭、其脾爲約、麻子仁丸主之。
- [三六三] 下利、寸脈反浮數、尺中自澀者、必清膿血。

○沈脈

[沈脈は、軽くさわれば、見えずして、おせばたしかに、あまりありけり]

- [六一] 下之後、復發汗、晝日煩躁、不得眠、夜而安靜、不嘔、不渴、無表證、脈沈微、身無大熱者、乾薑附子湯主之。
- [六二] 發汗後、身疼痛、脈沈遲者、桂枝加芍藥生薑各一兩人參三兩新加湯主之。
- [六七] 傷寒、若吐若下後、心下逆滿、氣上衝胸、起則頭眩、脈沈緊、發汗則動經、身爲振振搖者、茯苓桂枝白朮甘草湯主之。
- [九二] 病發熱頭痛、脈反沈、若不差、身體疼痛、當救其裏、宜四逆湯。
- [一二四] 太陽病、六、七日、表證仍在、脈微而沈、反不結胸、其人發狂者、以熱在下焦、少腹當鞭滿、小便自利者、下血乃愈、所以然者、以太陽隨經、瘀熱在裏故也、抵當湯主之。
- [一二五] 太陽病、身黃、脈沈結、少腹鞭、小便不利者、爲無血也；小便自利、其人如狂者、血證諦也、抵當湯主之。
- [一二八] 問曰：病有結胸、有藏結、其狀何如、答曰：按之痛、寸脈浮、關脈沈、名曰結胸也。
- [一二九] 何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。
- [一三五] 傷寒六、七日、結胸熱實、脈沈而緊、心下痛、按之石鞭者、大陷胸湯主之。
- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- [一四八] 傷寒五、六日、頭汗出、微惡寒、手足冷、心下滿、口不欲食、大便鞭、脈細者、此爲陽微結、必有表復有裏也、脈沈亦在裏也。汗出爲陽微、假令純陰結、不得復有外證、悉入在裏、此爲半在裏半在外也。脈雖沈緊、不得爲少陰病、所以然者、陰不得有汗、今頭汗出、故知非少陰也、可與小柴胡湯。設不了了者、得屎而解。
- [二一八] 傷寒四、五日、脈沈而喘滿、沈爲在裏、而反發其汗、津液越出、大便

爲難、表虛裏實、久則譫語。

- [二六六] 本太陽病不解、轉入少陽者、脅下鞭滿、乾嘔不能食、往來寒熱、尚未吐下、脈沈緊者、與小柴胡湯。
- [二八五] 少陰病、脈細沈數、病爲在裏、不可發汗。
- [三〇〇] 少陰病、脈微細沈、但欲臥、汗出不煩、自欲吐、至五、六日、自利、復煩躁不得臥寐者、死。
- [三〇一] 少陰病、始得之、反發熱、脈沈者、麻黃細辛附子湯主之。
- [三〇五] 少陰病、身體痛、手足寒、骨節痛、脈沈者、附子湯主之。
- [三二三] 少陰病、脈沈者、急溫之、宜四逆湯。
- [三五七] 傷寒、六、七日、大下後、寸脈沈而遲、手足厥逆、下部脈不至、喉咽不利、唾膿血、泄利不止者、爲難治、麻黃升麻湯主之。
- [三六五] 下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。
- [三六六] 下利、脈沈而遲、其人面少赤、身有微熱、下利清穀者、必鬱冒汗出而解、病人必微厥、所以然者、其面戴陽、下虛故也。
- [三九四] 傷寒差以後、更發熱、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之。脈沈實一作緊者、以下解之。

● 沈微

- [六一] 下之後、復發汗、晝日煩躁、不得眠、夜而安靜、不嘔、不渴、無表證、脈沈微、身無大熱者、乾薑附子湯主之。
- [一二四] 太陽病、六、七日、表證仍在、脈微而沈、反不結胸、其人發狂者、以熱在下焦、少腹當鞭滿、小便自利者、下血乃愈、所以然者、以太陽隨經、瘀熱在裏故也、抵當湯主之。
- [三〇〇] 少陰病、脈微細沈、但欲臥、汗出不煩、自欲吐、至五、六日、自利、復煩躁不得臥寐者、死。
- [三六五] 下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。

● 沈遲

- [六二] 發汗後、身疼痛、脈沈遲者、桂枝加芍藥生薑各一兩人參三兩新加湯主之。
- [三五七] 傷寒、六、七日、大下後、寸脈沈而遲、手足厥逆、下部脈不至、喉咽不利、唾膿血、泄利不止者、爲難治、麻黃升麻湯主之。
- [三六六] 下利、脈沈而遲、其人面少赤、身有微熱、下利清穀者、必鬱冒汗出而解、病人必微厥、所以然者、其面戴陽、下虛故也。

● 沈緊

- [六七] 傷寒、若吐若下後、心下逆滿、氣上衝胸、起則頭眩、脈沈緊、發汗則動經、身爲振振搖者、茯苓桂枝白朮甘草湯主之。
- [一二九] 何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。
- [一三五] 傷寒六、七日、結胸熱實、脈沈而緊、心下痛、按之石鞮者、大陷胸湯主之。
- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- [一四八] 傷寒五、六日、頭汗出、微惡寒、手足冷、心下滿、口不欲食、大便鞭、脈細者、此爲陽微結、必有表復有裏也、脈沈亦在裏也。汗出爲陽微、假令純陰結、不得復有外證、悉入在裏、此爲半在裏半在外也。脈雖沈緊、不得爲少陰病、所以然者、陰不得有汗、今頭汗出、故知非少陰也、可與小柴胡湯。設不了了者、得屎而解。
- [二六六] 本太陽病不解、轉入少陽者、脅下鞭滿、乾嘔不能食、往來寒熱、尚未吐下、脈沈緊者、與小柴胡湯。
- [三九四] 傷寒差以後、更發熱、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之。脈沈實一作緊者、以下解之。

● 沈數

- [二八五] 少陰病、脈細沈數、病爲在裏、不可發汗。

● 沈弦

- [三六五] 下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。

○ 數脈

- [さくはかず、数打つ脈の、速くして、ただひとすじに、すすむなりけり]

- 〔四〕傷寒一日、太陽受之、脈若靜者、爲不傳；頗欲吐、若躁煩、脈數急者、爲傳也。
- 〔四九〕脈浮數者、法當汗出而愈、若下之、身重心悸者、不可發汗、當自汗出乃解。所以然者、尺中脈微、此裏虛、須表裏實、津液自和、便自汗出愈。
- 〔五二〕脈浮而數者、可發汗、宜麻黃湯。
- 〔五七〕傷寒發汗已解、半日許、復煩、脈浮數者、可更發汗、宜桂枝湯。
- 〔七二〕發汗已、脈浮數、煩渴者、五苓散主之。
- 〔一一六〕微數之脈、慎不可灸、因火爲邪、則爲煩逆、追虛逐實、血散脈中、火氣雖微、內攻有力、焦骨傷筋、血難復也。脈浮、宜以汗解、用火灸之、邪無從出、因火而盛、病從腰以下必重而痺、名火逆也、欲自解者、必當先煩、煩乃有汗而解、何以知之、脈浮故知汗出解。
- 〔一二〇〕太陽病、當惡寒發熱、今自汗出、反不惡寒發熱、關上脈細數者、以醫吐之過也。一、二日吐之者、腹中飢、口不能食；三、四日吐之者、不喜糜粥、欲食冷食、朝食暮吐、以醫吐之所致也、此爲小逆。
- 〔一二二〕病人脈數、數爲熱、當消穀引食、而反吐者、此以發汗、令陽氣微、膈氣虛、脈乃數也。數爲客熱、不能消穀、以胃中虛冷、故吐也。
- 〔一三四〕太陽病、脈浮而動數、浮則爲風、數則爲熱、動則爲痛、數則爲虛、頭痛發熱、微盜汗出、而反惡寒者、表未解也。醫反下之、動數變遲、膈內拒痛、胃中空虛、客氣動膈、短氣躁煩、心中懊懣、陽氣內陷、心下因鞭、則爲結胸、大陷胸湯主之；若不結胸、但頭汗出、餘處無汗、劑頸而還、小便不利、身必發黃。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- 〔二五六〕陽明、少陽合病、必下利、其脈不負者爲順也。負者失也、互相克賊、名爲負也。脈滑而數者、有宿食也、當下之、宜大承氣湯。
- 〔二五七〕病人無表裏證、發熱七日、八日、雖脈浮數者、可下之。假令已下、脈數不解、合熱則消穀喜飢、至六、七日不大便者、有瘀血、宜抵當湯。
- 〔二五八〕若脈數不解、而下不止、必協熱便膿血也。
- 〔二八五〕少陰病、脈細沈數、病爲在裏、不可發汗。
- 〔三三二〕傷寒始發熱六日、厥反九日而利、凡厥利者、當不能食、今反能食者、恐爲除中一云消中、食以索餅、不發熱者、知胃氣尚在、必愈。恐暴熱來出而復去也。後日脈之、其熱續在者、期之旦日夜半愈。所以然者、本發熱六日、厥反九日、復發熱三日、並前六日、亦爲九日、與厥相應、故期之旦日夜半愈。後三日脈之而脈數、其熱不罷者、此爲熱氣有餘、必發癰膿也。
- 〔三六一〕下利、脈數、有微熱、汗出、今自愈；設復緊、爲未解。一云設脈浮復緊。
- 〔三六三〕下利、寸脈反浮數、尺中自澀者、必清膿血。
- 〔三六五〕下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。
- 〔三六七〕下利、脈數而渴者、今自愈；設不差、必清膿血、以有熱故也。

○遲脈

〔遲はおそく、おそきはこれる、ゆえぞかし、来れる脈の、遅きとぞ知れ〕

- 〔五十〕脈浮緊者、法當身疼痛、宜以汗解之、假令尺中遲者、不可發汗、何以知其然、以榮氣不足、血少故也。
- 〔六二〕發汗後、身疼痛、脈沈遲者、桂枝加芍藥生薑各一兩人參三兩新加湯主之。
- 〔九八〕得病六、七日、脈遲浮弱、惡風寒、手足溫、醫二、三下之、不能食、而脅下滿痛、面目及身黃、頸項強、小便難者、與柴胡湯、後必下重、本渴飲水而嘔者、柴胡湯不中與也。食穀者噦。
- 〔一三四〕太陽病、脈浮而動數、浮則爲風、數則爲熱、動則爲痛、數則爲虛、頭痛發熱、微盜汗出、而反惡寒者、表未解也。醫反下之、動數變遲、膈內拒痛、胃中空虛、客氣動膈、短氣躁煩、心中懊懣、陽氣內陷、心下因鞭、則爲結胸、大陷胸湯主之；若不結胸、但頭汗出、餘處無汗、劑頸而還、小便不利、身必發黃。
- 〔一四三〕婦人中風、發熱惡寒、經水適來、得之七、八日、熱除而脈遲身涼、胸脅下滿、如結胸狀、譫語者、此爲熱入血室也、當刺期門、隨其實而取之。
- 〔一九五〕陽明病、脈遲、食難用飽、飽則微煩、頭眩、必小便難、此欲作穀疸、雖下之、腹滿如故、所以然者、脈遲故也。
- 〔二〇八〕陽明病、脈遲、雖汗出不惡寒者、其身必重、短氣、腹滿而喘。有潮熱者、此外欲解、可攻裏也。手足蠱然汗出者、此大便已鞭也、大承氣湯主之。若汗多、微發熱惡寒者、外未解也、一法與桂枝湯其熱不潮、未可與承氣湯；若腹大滿不通者、可與小承氣湯、微和胃氣、勿令至大泄

- 下。
- 〔二二五〕脈浮而遲、表熱裏寒、下利清穀者、四逆湯主之。
- 〔二三四〕陽明病、脈遲、汗出多、微惡寒者、表未解也。可發汗、宜桂枝湯。
- 〔三二四〕少陰病、飲食入口則吐、心中溫溫欲吐、復不能吐、始得之、手足寒、脈弦遲者、此胸中實、不可下也、當吐之；若膈上有寒飲、乾嘔者、不可吐也、當溫之、宜四逆湯。
- 〔三三三〕傷寒脈遲、六、七日、而反與黃芩湯徹其熱、脈遲爲寒、今與黃芩湯復除其熱、腹中應冷、當不能食、今反能食、此名除中、必死。
- 〔三五七〕傷寒、六、七日、大下後、寸脈沈而遲、手足厥逆、下部脈不至、喉咽不利、唾膿血、泄利不止者、爲難治、麻黃升麻湯主之。
- 〔三六六〕下利、脈沈而遲、其人面少赤、身有微熱、下利清穀者、必鬱冒汗出而解、病人必微厥、所以然者、其面戴陽、下虛故也。

○結脈

〔むすぼれて、代の形に、似たれども、ひとたび止まり、また続くなり。〕

- 〔一二五〕太陽病、身黃、脈沈結、少腹鞭。小便不利者、爲無血也；小便自利、其人如狂者、血證諦也、抵當湯主之。
- 〔一四八〕傷寒五、六日、頭汗出、微惡寒、手足冷、心下滿、口不欲食、大便鞭、脈細者、此爲陽微結、必有表復有裏也、脈沈亦在裏也。汗出爲陽微、假令純陰結、不得復有外證、悉入在裏、此爲半在裏半在外也。脈雖沈緊、不得爲少陰病、所以然者、陰不得有汗、今頭汗出、故知非少陰也、可與小柴胡湯。設不了了者、得屎而解。
- 〔一七七〕傷寒、脈結代、心動悸、炙甘草湯主之。
- 〔一七八〕脈按之來緩、時一止復來者、名曰結；又脈來動而中止、更來小數、中有還者、反動、名曰結、陰也；脈來動而中止、不能自還、因而復動者、名曰代、陰也；得此脈者、必難治。

○代脈

〔代脈は、打つとどまりて、みえぬべし、ひさしくたづね、またくるべし〕

- 〔一七七〕傷寒、脈結代、心動悸、炙甘草湯主之。
- 〔一七八〕脈按之來緩、時一止復來者、名曰結；又脈來動而中止、更來小數、中有還者、反動、名曰結、陰也；脈來動而中止、不能自還、因而復動者、名曰代、陰也；得此脈者、必難治。

○促脈

〔促脈は、數脈よりも、早くして、寸にせまれば、また沈むなり。〕

- 〔二一〕太陽病、下之後、脈促胸滿者、桂枝去芍藥湯主之。
- 〔三四〕太陽病、桂枝證、醫反下之、利遂不止。脈促者、表未解也；喘而汗出者、葛根黃芩黃連湯主之。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- 〔三四九〕傷寒脈促、手足厥逆、可灸之。 促、一作縱。

○細脈

〔細くして、押せば糸すじ、ひきはへて、来れる脈の、たえむばかりぞ。〕

- 〔三七〕太陽病十日以去、脈浮細而嗜臥者、外已解也；設胸滿脅痛者、與小柴胡湯；脈但浮者、與麻黃湯。
- 〔六〇〕下之後、復發汗、必振寒、脈微細、所以然者、以內外俱虛故也。
- 〔一二〇〕太陽病、當惡寒發熱、今自汗出、反不惡寒發熱、關上脈細數者、以醫吐之過也。一、二日吐之者、腹中飢、口不能食；三、四日吐之者、不喜糜粥、欲食冷食、朝食暮吐、以醫吐之所致也、此爲小逆。
- 〔一二九〕何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- 〔一四八〕傷寒五、六日、頭汗出、微惡寒、手足冷、心下滿、口不欲食、大便鞭、脈細者、此爲陽微結、必有表復有裏也、脈沈亦在裏也。汗出爲陽微、假令純陰結、不得復有外證、悉入在裏、此爲半在裏半在外也。脈雖沈緊、不得爲少陰病、所以然者、陰不得有汗、今頭汗出、故知非少陰也、

- 可與小柴胡湯。設不了了者、得屎而解。
- 〔二六五〕傷寒、脈弦細、頭痛發熱者、屬少陽。少陽不可發汗、發汗則譫語、此屬胃。胃和則愈；胃不和、煩而悸。
- 〔二八一〕少陰之爲病、脈微細、但欲寐也。
- 〔二八五〕少陰病、脈細沈數、病爲在裏、不可發汗。
- 〔三〇〇〕少陰病、脈微細沈、但欲臥、汗出不煩、自欲吐、至五、六日、自利、復煩躁不得臥寐者、死。
- 〔三五—〕手足厥寒、脈細欲絕者、當歸四逆湯主之。

○大脈

- 〔二五〕服桂枝湯、大汗出、脈洪大者、與桂枝湯如前法。若形似瘧、一日再發者、汗出必解、宜桂枝二麻黃一湯。
- 〔二六〕服桂枝湯、大汗出後、大煩渴不解、脈洪大者、白虎加人參湯主之。
- 〔三〇〕問曰：證象陽旦、按法治之而增劇、厥逆、咽中乾、兩脛拘急而譫語、師曰：言夜半手足當溫、兩脚當伸、後如師言、何以知此。答曰：寸口脈浮而大、浮爲風、大爲虛、風則生微熱、虛則兩脛攣、病形象桂枝、因加附子參其間。增桂令汗出、附子溫經、亡陽故也、厥逆、咽中乾、煩躁、陽明內結、譫語煩亂、更飲甘草乾薑湯、夜半陽氣還、兩足當熱；脛尚微拘急、重與芍藥甘草湯、爾乃脛伸；以承氣湯微瀉、則止其譫語、故知病可愈。
- 〔一三二〕結胸證、其脈浮大者、不可下、下之則死。
- 〔一八六〕傷寒三日、陽明脈大。
- 〔二三—〕陽明中風、脈弦浮大而短氣、腹都滿、脅下及心痛、久按之、氣不通、鼻乾不得汗、嗜臥、一身及目悉黃、小便難、有潮熱、時時噦、耳前後腫、刺之小差、外不解、病過十日、脈續浮者、與小柴胡湯。
- 〔二六八〕三陽合病、脈浮大、上關上、但欲眠睡、目合則汗。
- 〔三六五〕下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。

○洪脈

〔洪脈は、浮き立ち浪の、如くにて、広く大きく、満ち来るなり。〕

- 〔二五〕服桂枝湯、大汗出、脈洪大者、與桂枝湯如前法。若形似瘧、一日再發者、汗出必解、宜桂枝二麻黃一湯。
- 〔二六〕服桂枝湯、大汗出後、大煩渴不解、脈洪大者、白虎加人參湯主之。

○長脈

〔長脈は、竿をたずそう、如くにて、浮かず沈まず、続くなりけり。〕

- 〔二七四〕太陰中風、四肢煩疼、陽微陰澀而長者、爲欲愈。

○短脈

〔短きて、脈の往き来の、あとぞなし、ただ米粒の、形ちなるらん。〕

- 〔二一一〕發汗多、若重發汗者、亡其陽、譫語、脈短者死、脈自和者不死。

○緊脈

〔緊脈は、なわよりかくる、形にて、強く力を、含むなりけり。〕

- 〔三〕太陽病或已發熱、或未發熱、必惡寒、體痛、嘔逆、脈陰陽俱緊者、名爲傷寒。
- 〔十六〕太陽病三日、已發汗、若吐、若下、若溫針仍不解者、此爲壞病、桂枝不中與之也。觀其脈證、知犯何逆、隨證治之。桂枝本爲解肌、若其人脈浮緊、發熱、汗不出者、不可與之也。常須識此、勿令誤也。
- 〔三八〕太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青龍湯主之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆也。
- 〔四六〕太陽病、脈浮緊、無汗、發熱、身疼痛、八九日不解、表證仍在、此當發其汗。服藥已、微除、其人發煩、目瞑、劇者必衄。衄乃解、所以然者、陽氣重故也、麻黃湯主之。
- 〔四七〕太陽病、脈浮緊、發熱身無汗、自衄者愈。
- 〔五十〕脈浮緊者、法當身疼痛、宜以汗解之、假令尺中遲者、不可發汗、何以知其然、以榮氣不足、血少故也。
- 〔五五〕傷寒脈浮緊、不發汗、因致衄者、麻黃湯主之。
- 〔六七〕傷寒、若吐若下後、心下逆滿、氣上衝胸、起則頭眩、脈沈緊、發汗則動

- 經、身爲振振搖者、茯苓桂枝白朮甘草湯主之。
- [八六] 衄家、不可發汗、汗出必額上陷、脈急緊、直視不能胸、不得眠。
- [一〇八] 傷寒、腹滿、譫語、寸口脈浮而緊、此肝乘脾也、名曰縱、刺期門。
- [一一三] 形作傷寒、其脈不弦緊而弱、弱者必渴、被火必譫語；弱者發熱、脈浮、解之當汗出愈。
- [一二九] 何謂藏結、答曰：如結胸狀、飲食如故、時時下利、寸脈浮、關脈小細沈緊、名曰藏結、舌上白胎滑者難治。
- [一三五] 傷寒六、七日、結胸熱實、脈沈而緊、心下痛、按之石韃者、大陷胸湯主之。
- [一四〇] 太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- [一四八] 傷寒五、六日、頭汗出、微惡寒、手足冷、心下滿、口不欲食、大便韃、脈細者、此爲陽微結、必有表復有裏也、脈沈亦在裏也。汗出爲陽微、假令純陰結、不得復有外證、悉入在裏、此爲半在裏半在外也。脈雖沈緊、不得爲少陰病、所以然者、陰不得有汗、今頭汗出、故知非少陰也、可與小柴胡湯。設不了了者、得屎而解。
- [一五一] 脈浮而緊、而復下之、緊反入裏、則作痞、按之自濡、但氣痞耳。
- [一八九] 陽明中風、口苦咽乾、腹滿微喘、發熱惡寒、脈浮而緊、若下之、則腹滿小便難也。
- [一九二] 陽明病、初欲食、小便反不利、大便自調、其人骨節疼、翕翕如有熱狀、奄然發狂、轟然汗出而解者、此水不勝穀氣、與汗共並、脈緊則愈。
- [二〇一] 陽明病、脈浮而緊者、必潮熱、發作有時；但浮者、必盜汗出。
- [二二一] 陽明病、脈浮而緊、咽燥口苦、腹滿而喘、發熱汗出、不惡寒、反惡熱、身重。若發汗則躁、心憤憤、反譫語；若加溫鍼、必怵惕煩躁不得眠；若下之、則胃中空虛、客氣動膈、心中懊惱、舌上胎者、梔子豉湯主之。
- [二六六] 若太陽病不解、轉入少陽者、脅下韃滿、乾嘔不能食、往來寒熱、尚未吐下、脈沈緊者、與小柴胡湯。
- [二八三] 病人脈陰陽俱緊、反汗出者、亡陽也、此屬少陰、法當咽痛、而復吐利。
- [二八七] 少陰病、脈緊、至七、八日、自下利、脈暴微、手足反溫、脈緊反去者、爲欲解也。雖煩下利、必自愈。
- [三五五] 病人手足厥冷、脈乍緊者、邪結在胸中；心下滿而煩、飢不能食者、病在胸中、當須吐之、宜瓜蒂散。
- [三六一] 下利、脈數、有微熱、汗出、今自愈；設復緊、爲未解。一云設脈浮復緊。
- [三九四] 傷寒差以後、更發熱、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之。脈沈實一作緊者、以下解之。

○弱脈

[弱脈は、細く沈みて、やわらかに、たよたよきたり、押せばたえだえ。]

- [十二] 太陽中風、陽浮而陰弱。陽浮者、熱自發、陰弱者、汗自出。嗇嗇惡寒、淅淅惡風、翕翕發熱、鼻鳴乾嘔者、桂枝湯主之。
- [二七] 太陽病、發熱惡寒、熱多寒少。脈微弱者、此無陽也、不可發汗。宜桂枝二越婢一湯。
- [三八] 太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青龍湯主之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆也。
- [四二] 太陽病、外證未解、脈浮弱者、當以汗解、宜桂枝湯。
- [九八] 得病六、七日、脈遲浮弱、惡風寒、手足溫、醫二、三下之、不能食、而脅下滿痛、面目及身黃、頸項強、小便難者、與柴胡湯、後必下重、本渴飲水而嘔者、柴胡湯不中與也。食穀者噦。
- [一一三] 形作傷寒、其脈不弦緊而弱、弱者必渴、被火必譫語；弱者發熱、脈浮、解之當汗出愈。
- [一三九] 太陽病、二、三日、不能臥、但欲起、心下必結、脈微弱者、此本有寒分也、反下之、若利止、必作結胸；未止者、四日復下之、此作協熱利也。
- [二四四] 太陽病、寸緩關浮尺弱、其人發熱、汗出、復惡寒、不嘔、但心下痞者、此以醫下之也。如其不下者、病人不惡寒而渴者、此轉屬陽明也。小便數者、大便必韃、不更衣十日、無所苦也、渴欲飲水、少少與之、但以法救之。渴者、宜五苓散。
- [二五一] 得病二、三日、脈弱、無太陽、柴胡證、煩躁心下韃、至四、五日、雖能食、以小承氣湯少少與微和之、令小安。至六日、與承氣湯一升。若不大便六、七日、小便少者、雖不受食、但初頭韃、後必溏。未定成韃、攻之必溏。須小便利、屎定韃、乃可攻之、宜大承氣湯。
- [二八〇] 太陰爲病、脈弱、其人續自便利、設當行大黃芍藥者、宜減之、以其人

胃氣弱、易動故也。

〔二八六〕少陰病、脈微、不可發汗、亡陽故也；陽已虛、尺脈弱澀者、復不可下之。

〔三六〇〕下利者微熱而渴、脈弱者、今自愈。

〔三六五〕下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。

〔三七七〕嘔而脈弱、小便復利、身有微熱見厥者、難治、四逆湯主之。

○澀脈

〔澀は細く、ゆききも遅く、悩みつつ、止まんとすれば、また来るなり。〕

〔四八〕二陽併病、太陽初得病時、發其汗、汗先出不徹、因轉屬陽明、續自微汗出、不惡寒。若太陽病證不罷者、不可下、下之爲逆、如此可小發汗。設面色緣緣正赤者、陽氣怫鬱在表、當解之、熏之。若發汗不徹、不足言陽氣怫鬱不得越、當汗不汗、其人躁煩、不知痛處、乍在腹中、乍在四肢、按之不可得、其人短氣、但坐、以汗出不徹故也、更發汗則愈。何以知汗出不徹、以脈澀故知也。

〔一〇〇〕傷寒、陽脈澀、陰脈弦、法當腹中急痛、先與小建中湯。不差者、小柴胡湯主之。

〔一七四〕傷寒八、九日、風濕相轉、身體疼煩、不能自轉側、不嘔不渴、脈浮虛而澀者、桂枝附子湯主之；若其人大便鞭、小便自利者、去桂加白朮湯主之。

〔二一二〕傷寒若吐若下後不解、不大便五、六日、上至十餘日、日晡所發潮熱、不惡寒、獨語如見鬼狀。若劇者、發則不識人、循衣摸牀、惕而不安、微喘直視。脈弦者生、澀者死。微者、但發熱譫語者、大承氣湯主之、若一服利、則止後服。

〔二一四〕陽明病、譫語、發潮熱、脈滑而疾者、小承氣湯主之。因與承氣湯一升、腹中轉氣者、更服一升、若不轉氣者、勿更與之。明日又不大便、脈反微澀者、裏虛也、爲難治、不可更與承氣湯也。

〔二四七〕跌陽脈浮而澀、浮則胃氣強、澀則小便數、浮澀相搏、大便則鞭、其脾爲約、麻子仁丸主之。

〔二七四〕太陰中風、四肢煩疼、陽微陰澀而長者、爲欲愈。

〔二八六〕少陰病、脈微、不可發汗、亡陽故也；陽已虛、尺脈弱澀者、復不可下之。

〔三二五〕少陰病、下利、脈微澀、嘔而汗出、必數更衣、反少者、當溫其上、灸之。

〔三六三〕下利、寸脈反浮數、尺中自澀者、必清膿血。

〔三八四〕傷寒、其脈微澀者、本是霍亂、今是傷寒、却四、五日、至陰經上、轉入陰、必利、本嘔下利者、不可治也；欲似大便而反失氣、仍不利者、此屬陽明也、便必鞭、十三日愈、所以然者、經盡故也。下利後、當便鞭、鞭則能食者愈、今反不能食、到後經中、頗能食、復過一經、能食、過之一日當愈、不愈者、不屬陽明也。

○弦脈

〔弦脈は、弦をはりたる、弓に似て、おせばたわまず、はじくなりけり。〕

〔一〇〇〕傷寒、陽脈澀、陰脈弦、法當腹中急痛、先與小建中湯。不差者、小柴胡湯主之。

〔一一三〕形作傷寒、其脈不弦緊而弱、弱者必渴、被火必譫語；弱者發熱、脈浮、解之當汗出愈。

〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。

〔一四二〕太陽與少陽併病、頭項強痛、或眩冒、時如結胸、心下痞鞭者、當刺大椎第一間、肺俞、肝俞；慎不可發汗、發汗則譫語、脈弦、五日、譫語不止、當刺期門。

〔二一二〕傷寒若吐若下後不解、不大便五、六日、上至十餘日、日晡所發潮熱、不惡寒、獨語如見鬼狀。若劇者、發則不識人、循衣摸牀、惕而不安、微喘直視。脈弦者生、澀者死。微者、但發熱譫語者、大承氣湯主之、若一服利、則止後服。

〔二三一〕陽明中風、脈弦浮大而短氣、腹都滿、脅下及心痛、久按之、氣不通、鼻乾不得汗、嗜臥、一身及目悉黃、小便難、有潮熱、時時噦、耳前後腫、刺之小差、外不解、病過十日、脈續浮者、與小柴胡湯。

〔二六五〕傷寒、脈弦細、頭痛發熱者、屬少陽。少陽不可發汗、發汗則譫語、此屬胃。胃和則愈；胃不和、煩而悸。

- 〔三二四〕少陰病、飲食入口則吐、心中温温欲吐、復不能吐、始得之、手足寒、脈弦遲者、此胸中實、不可下也、當吐之；若膈上有寒飲、乾嘔者、不可吐也、當温之、宜四逆湯。
- 〔三六五〕下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。

○芤脈

〔芤脈は、うきて大きく、中むなし、おせばさながら、ひともじに似る。〕

〔二四六〕脈浮而芤、浮爲陽、芤爲陰、浮芤相搏、胃氣生熱、其陽則絶。

○滑脈（『脉経』では脉の往来が円滑で速く搏つ脉の状態をいう。『察病指南』ではすべすべした珠の表面をなでるような脉としている）

〔なめらかに、まろき形は、玉に似て、挙ぐればあまり、押せば伏すなり。〕

- 〔一三八〕小結胸病、正在心下、按之則痛、脈浮滑者、小陷胸湯主之。
- 〔一四〇〕太陽病下之、其脈促不結胸者、此爲欲解也；脈浮者、必結胸；脈緊者、必咽痛；脈弦者、必兩脅拘急；脈細數者、頭痛未止；脈沈緊者、必欲嘔；脈沈滑者、協熱利；脈浮滑者、必下血。
- 〔一七六〕傷寒、脈浮滑、此以表有熱裏有寒、白虎湯主之。
- 〔二一四〕陽明病、譫語、發潮熱、脈滑而疾者、小承氣湯主之。因與承氣湯一升、腹中轉氣者、更服一升、若不轉氣者、勿更與之。明日又不大便、脈反微澀者、裏虛也、爲難治、不可更與承氣湯也。
- 〔二五六〕陽明、少陽合病、必下利、其脈不負者爲順也。負者失也、互相克賊、名爲負也。脈滑而數者、有宿食也、當下之、宜大承氣湯。
- 〔三五〇〕傷寒脈滑、而厥者、裏有熱、白虎湯主之。

○疾脈

〔二一四〕陽明病、譫語、發潮熱、脈滑而疾者、小承氣湯主之。因與承氣湯一升、腹中轉氣者、更服一升、若不轉氣者、勿更與之。明日又不大便、脈反微澀者、裏虛也、爲難治、不可更與承氣湯也。

○緩脈

〔緩はただ、脈の形の、緩くして、遲とは大きに、おなじからぬぞ。〕

- 〔二〕太陽病、發熱、汗出、惡風、脈緩者、名爲中風。
- 〔二三〕太陽病、得之八九日、如瘧狀、發熱惡寒、熱多寒少、其人不嘔、清便欲自可、一日二三度發。脈微緩者、爲欲愈也；脈微而惡寒者、此陰陽俱虛、不可更發汗更下更吐也；面色反有熱色者、未欲解也、以其不能得小汗出、身必癢、宜桂枝麻黃各半湯。
- 〔三九〕傷寒脈浮緩、身不疼、但重、乍有輕時、無少陰證者、大青龍湯發之。
- 〔一七八〕脈按之來緩、時一止復來者、名曰結；又脈來動而中止、更來小數、中有還者、反動、名曰結、陰也；脈來動而中止、不能自還、因而復動者、名曰代、陰也；得此脈者、必難治。
- 〔一八七〕傷寒脈浮而緩、手足自温者、是爲繫在太陰。太陰者、身當發黃。若小便自利者、不能發黃、至七、八日、大便鞭者、爲陽明病也。
- 〔二四四〕太陽病、寸緩關浮尺弱、其人發熱、汗出、復惡寒、不嘔、但心下痞者、此以醫下之也。如其不下者、病人不惡寒而渴者、此轉屬陽明也。小便數者、大便必鞭、不更衣十日、無所苦也、渴欲飲水、少少與之、但以法救之。渴者、宜五苓散。
- 〔二七八〕傷寒脈浮而緩、手足自温者、繫在太陰、太陰當發身黃。若小便自利者、不能發黃。至七、八日、雖暴煩下利日十餘行、必自止、以脾家實、腐穢當去故也。

○靜脈

〔四〕傷寒一日、太陽受之、脈若靜者、爲不傳；頗欲吐、若躁煩、脈數急者、爲傳也。

○實脈

〔實脈は、大きく長く、強くして、押せばかくれて、なお満なり。〕

〔二四〇〕病人煩熱、汗出則解、又如瘧狀、日晡所發熱者、屬陽明也。脈實者、

- 宜下之；脈浮虛者、宜發汗；下之與大承氣湯、發汗宜桂枝湯。
 〔二四五〕脈陽微而汗出少者、爲自和也；汗出多者、爲大過。陽脈實、因發其汗、
 出多者、亦爲大過。大過者爲陽絕於裏。亡津液、大便因鞅也。
 〔三六九〕傷寒下利、日十餘行、脈反實者死。
 〔三九四〕傷寒差以後、更發熱、小柴胡湯主之、脈浮者、以汗解之。脈沈實一作
 緊者、以下解之。

○散脈

〔散脈は、形大きく、散りぬべし、表ぞありて、裏なかりけり。〕

- 〔一一六〕微數之脈、慎不可灸、因火爲邪、則爲煩逆、追虛逐實、血散脈中、火
 氣雖微、內攻有力、焦骨傷筋、血難復也。脈浮、宜以汗解、用火灸之、
 邪無從出、因火而盛、病從腰以下必重而痺、名火逆也、欲自解者、必
 當先煩、煩乃有汗而解、何以知之、脈浮故知汗出解。⑭

○微脈

〔微はかたち、たえて少なき、ことぞかし、かすかに見えて、無きが如しぞ。〕

- 〔二三〕太陽病、得之八九日、如瘧狀、發熱惡寒、熱多寒少、其人不嘔、清便欲
 自可、一日二三度發。脈微緩者、爲欲愈也；脈微而惡寒者、此陰陽俱虛、
 不可更發汗更下更吐也；面色反有熱色者、未欲解也、以其不能得小汗出、
 身必癢、宜桂枝麻黃各半湯。⑮
 〔二七〕太陽病、發熱惡寒、熱多寒少。脈微弱者、此無陽也、不可發汗。宜桂枝
 二越婢一湯。⑮
 〔三八〕太陽中風、脈浮緊、發熱惡寒、身疼痛、不汗出、而煩躁者、大青竜湯主
 之；若脈微弱、汗出惡風者、不可服之、服之則厥逆、筋惕肉瞤、此爲逆
 也。⑮
 〔四九〕脈浮數者、法當汗出而愈、若下之、身重心悸者、不可發汗、當自汗出乃
 解。所以然者、尺中脈微、此裏虛、須表裏實、津液自和、便自汗出愈。
 〔六〇〕下之後、復發汗、必振寒、脈微細、所以然者、以內外俱虛故也。
 〔六一〕下之後、復發汗、晝日煩躁、不得眠、夜而安靜、不嘔、不渴、無表證、
 脈沈微、身無大熱者、乾薑附子湯主之。
 〔九四〕太陽病、未解、脈陰陽俱停、必先振慄、汗出而解；但陽脈微者、先汗出
 而解；但陰脈微者、下之而解。若欲下之、宜調胃承氣湯。⑮
 〔一〇五〕傷寒、十三日、過經譫語者、以有熱也、當以湯下之。若小便利者、大
 便當鞅。而反下利、脈調和者、知醫以丸藥下之、非其治也；若自下利
 者、脈當微厥、今反和者、此爲內實也、調胃承氣湯主之。⑭
 〔一一六〕微數之脈、慎不可灸、因火爲邪、則爲煩逆、追虛逐實、血散脈中、火
 氣雖微、內攻有力、焦骨傷筋、血難復也。脈浮、宜以汗解、用火灸之、
 邪無從出、因火而盛、病從腰以下必重而痺、名火逆也、欲自解者、必
 當先煩、煩乃有汗而解、何以知之、脈浮故知汗出解。⑭
 〔一二四〕太陽病、六、七日、表證仍在、脈微而沈、反不結胸、其人發狂者、以
 熱在下焦、少腹當鞅滿、小便自利者、下血乃愈、所以然者、以太陽隨
 經、瘀熱在裏故也、抵當湯主之。⑮
 〔一三九〕太陽病、二、三日、不能臥、但欲起、心下必結、脈微弱者、此本有寒
 分也、反下之、若利止、必作結胸；未止者、四日復下之、此作協熱利
 也。⑮
 〔一六〇〕傷寒吐下後、發汗、虛煩、脈甚微、八、九日、心下痞鞅、脅下痛、氣
 上衝咽喉、眩冒、經脈動惕者、久而成萎。⑭
 〔一六六〕病如桂枝證、頭不痛、項不強、寸脈微浮、胸中痞鞅、氣上衝咽喉、不
 得息者、此爲胸有寒也、當吐之、宜瓜蒂散。⑭
 〔二一二〕傷寒若吐若下後不解、不大便五、六日、上至十餘日、日晡所發潮熱、
 不惡寒、獨語如見鬼狀。若劇者、發則不識人、循衣摸牀、惕而不安、
 微喘直視。脈弦者生、澀者死。微者、但發熱譫語者、大承氣湯主之、
 若一服利、則止後服。⑮
 〔二一四〕陽明病、譫語、發潮熱、脈滑而疾者、小承氣湯主之。因與承氣湯一升、
 腹中轉氣者、更服一升、若不轉氣者、勿更與之。明日又不大便、脈反
 微澀者、裏虛也、爲難治、不可更與承氣湯也。⑭⑮
 〔二四五〕脈陽微而汗出少者、爲自和也；汗出多者、爲大過。陽脈實、因發其汗、
 出多者、亦爲大過。大過者爲陽絕於裏。亡津液、大便因鞅也。
 〔二八一〕少陰之爲病、脈微細、但欲寐也。
 〔二八六〕少陰病、脈微、不可發汗、亡陽故也；陽已虛、尺脈弱澀者、復不可下
 之。
 〔二八七〕少陰病、脈緊、至七、八日、自下利、脈暴微、手足反溫、脈緊反去者、
 爲欲解也。雖煩下利、必自愈。
 〔二九〇〕少陰中風、脈陽微陰浮者、爲欲愈。

- 〔三〇〇〕少陰病、脈微細沈、但欲臥、汗出不煩、自欲吐、至五、六日、自利、復煩躁不得臥寐者、死。
- 〔三一五〕少陰病、下利、脈微者、與白通湯；利不止、厥逆無脈、乾嘔煩者、白通加猪膽汁湯主之；服湯脈暴出者死、微續者生。
- 〔三一七〕少陰病、下利清穀、裏寒外熱、手足厥逆、脈微欲絕、身反不惡寒、其人面色赤、或腹痛、或乾嘔、或咽痛、或利止脈不出者、通脈四逆湯主之。
- 〔三二五〕少陰病、下利、脈微澀、嘔而汗出、必數更衣、反少者、當溫其上、灸之。
- 〔三二七〕厥陰中風、脈微浮、爲欲愈、不浮爲未愈。
- 〔三三八〕傷寒脈微而厥、至七、八日膚冷、其人躁無暫安時者、此爲藏厥、非蚘厥也；蚘厥者、其人當吐蚘、令病者靜、而復時煩者、此爲藏寒、蚘上入其膈、故煩、須臾復止、得食而嘔、又煩者、蚘聞食臭出、其人當自吐蚘、蚘厥者、烏梅丸主之、又主久利方。
- 〔三四三〕傷寒六、七日、脈微、手足厥冷、煩躁、灸厥陰、厥不還者、死。
- 〔三六五〕下利脈沈弦者、下重也；脈大者、爲未止；脈微弱數者、爲欲自止、雖發熱不死。
- 〔三八四〕傷寒、其脈微澀者、本是霍亂、今是傷寒、却四、五日、至陰經上、轉入陰、必利、本嘔下利者、不可治也；欲似大便而反失氣、仍不利者、此屬陽明也、便必鞭、十三日愈、所以然者、經盡故也。下利後、當便鞭、鞭則能食者愈、今反不能食、到後經中、頗能食、復過一經、能食、過之一日當愈、不愈者、不屬陽明也。
- 〔三八五〕惡寒脈微、而復利。利止、亡血也、四逆加人參湯主之。
- 〔三八九〕既吐且利、小便復利、而大汗出、下利清穀、內寒外熱、脈微欲絕者、四逆湯主之。
- 〔三九〇〕吐已下斷、汗出而厥、四肢拘急不解、脈微欲絕者、通脈四逆加猪膽湯主之。

⑭

○虛脈

〔むなしきは、遅く大きく、軟らかに、ふわりと打ちて、按すにたらぬぞ。〕

- 〔一七四〕傷寒八、九日、風濕相傳、身體疼煩、不能自轉側、不嘔不渴、脈浮虛而澀者、桂枝附子湯主之；若其人大便鞭、小便自利者、去桂加白朮湯主之。⑮
- 〔二四〇〕病人煩熱、汗出則解、又如瘧狀、日晡所發熱者、屬陽明也。脈實者、宜下之；脈浮虛者、宜發汗；下之與大承氣湯、發汗宜桂枝湯。
- 〔三四七〕傷寒、五、六日、不結胸、腹濡、脈虛、復厥者、不可下、此亡血、下之死。

○動脈

〔動脈は、指にさわりの、あらくして、打つ度毎に、動くなりけり。〕

- 〔一三四〕太陽病、脈浮而動數、浮則爲風、數則爲熱、動則爲痛、數則爲虛、頭痛發熱、微盜汗出、而反惡寒者、表未解也。醫反下之、動數變遲、膈內拒痛、胃中空虛、客氣動膈、短氣躁煩、心中懊懣、陽氣內陷、心下因鞭、則爲結胸、大陷胸湯主之；若不結胸、但頭汗出、餘處無汗、劑頸而還、小便不利、身必發黃。⑯
- 〔一六〇〕傷寒吐下後、發汗、虛煩、脈甚微、八、九日、心下痞鞭、脅下痛、氣上衝咽喉、眩冒、經脈動惕者、久而成萎。⑰
- 〔一七八〕脈按之來緩、時一止復來者、名曰結；又脈來動而中止、更來小數、中有還者、反動、名曰結、陰也；脈來動而中止、不能自還、因而復動者、名曰代、陰也；得此脈者、必難治。⑱